

2021 . 2. 25. No394
おきがくろうニュース
沖縄学校事務労働組合



自らの要求は自らの手で!

カンパ送付先

郵便振替 02090-0-2239

沖縄学校事務労働組合

okigakurou2017@
gmail.com

「GIGA スクール構想」とかけて 事務職員と解く その心は

※「GIGA スクール構想」は誰のため?※

新型コロナウイルス感染拡大を受け、急遽予算前倒しで行われている GIGA スクール構想について、事務職員の皆さんはどの様に感じておりますか。自治体によっては、既に 1 人 1 台のタブレット端末の配布が行われ、授業に活用している学校がある一方、県都那覇市では、やっと全クラス電子黒板が導入されたばかりだ。息つく間もなく、今度は 1 人 1 台のタブレット端末導入である。今までの情報格差はいったい何だったのか。20 年度の補正予算において「学校休業時における子どもたちの『学びの保障』」と銘打って 2,292 億円が計上され、23 年度までの計画を前倒しする形で、全児童・生徒へ端末を配備することとなった。教育の機会均等や情報格差の是正は建前で、本音は子どもや教育現場のためではなく、コロナ禍で衰弱した産業・経済支援の一環である。その証拠に、財務省はタブレット端末のリースが切れる 5 年後の予算は、市町村で補うべきものと見解を出している。つまり、一過性の今だけ予算。萩生田文部科学大臣が雑誌インタビューで、学校の ICT 環境整備についてコロナ禍を起爆剤とし「ピンチをチャンスに変えて、これから (ICT 導入の) 遅れを取り戻せるように」と述べている。戦争や災害などの大惨事につけこんで実施される過激な市場原理主義改革を「ショック・ドクトリン」= 惨事便乗型資本主義と呼ぶそうだ。新型コロナ感染拡大を契機に進められている GIGA スクール構想はまさに「惨事便乗型教育改革」ではないだろうか。

※GIGA スクール構想に潜む管理社会化※

また、国は通信教育環境整備に便乗して、情報収集を行おうとしている。実際に保健室で始まっている「欠席者・感染者情報システム」では、全国の感染状況が分かるようになっている。今後は、「学校における感染症対策の充実」の名の下に、「PHR (Personal Health Record : 個人健康記録)」医療・健康情報を収集し、児童・生徒一人ひとり学習・健康・身体といった個人情報をビッグデータ化する算段だ。今後、マイナンバーとの紐づけを行っていくことも想定される。私たちの個人情報が、国に筒抜けになる社会が容易に想像できる。また、文科省が教育に EBPM (Evidence-Based Policy Making : 客観的な根拠に基づく政策立案) を盛り込むと公言していることも、ビッグデータの活用で大義名分を与える要因となるのではないだろうか。

※社会の変化は目まぐるしい※

私が小学生 (20 年前) の頃は、母のお古のワープロで小説を書き、感熱紙にテープで印刷していた。それが、コンピューターに替わり、ブラウン管が液晶へ、プリンターもトナーがインクジェット、レーザープリンターに替わり、今やペーパーレスで、スキャン保存だ。契約書もタブレットにサイン。日本はまだ主流を占めている通帳も、海外では過去の遺物となった。「パソコンが使えないと社会に出て困る」と、私が子どもの頃から言われていたが、今はそれにプログラミングまで加わっている。技術の進化は非常に早く、自分の子どもが大人になった時に、パソコンのスキルほどの位必要なのだろうかと考える。タイピングも Word や Excel も「OK. グーグル」と唱えれば、出来ているのではないだろうか。

※『いま』という本番をより良く生きる※

発達心理学者の浜田寿美男氏の言葉に「子育て観、教育観では『子どもは大人になるための準備の時代』であるかのように思われていますが、そもそも人生に準備の時代というものがあるのでしょうか。子どもは「子どものいま」を生きています。」今年度からスタートしたキャリア教育も「子どもを大人になるための準備の時代」と見なしているからこそその発想だろう。将来の不安定さを強調し「2040年頃には今の仕事の8割が消滅する」と。そもそも、フリーターやワーキングプアが増えたのも本人や教育が原因ではなく、社会構造の変化によるものだ。今の子どもたちが社会に出るときには、「正社員は100人に1人しかねないかもしれない」と言われている。その社会構造を構築している日本で、子ども時代から将来設計をさせても、将来、そもそも働き先があるのだろうか。IoTが進化し、オートメーション化された社会では、ロボットが生み出した富を社会全体で分かち合う、ベーシックインカムも導入されるのではないだろうか。働かなくては生きていけない社会ではなく、人生をより豊かにするための活動が行われる社会になることを強く願ってやまない。新自由主義の次の経済体制へ移行することを切に願わずにいられない。

※学校事務職員の『いま』とは※

ところで、脅しあげ将来の不安を煽り立てられているのは、子どもたちだけだろうか。

私たち学校事務職員もまた「定型業務・庶務業務はいずれAI、RPA (Robotic Process Automation) され、なくなる仕事だ」と「職の将来設計を考えなくては」と提案できる事務職を目指し「予算」や「地域連携」等と、生き残るための研究へと駆り立たされていのだろうか。



なくなりつつある職種に「用務員」がある。用務員さんたちは、改革をしなかったから、引き上げられたのだろうか。私は、違うと思う。皆さんが住んでいる市町村の広報誌の行政改革ページを確認してみてください。行革の人員費削減の中に「保育園の民営化による」と記載されていませんか。切りやすいのが、選挙権を持たない子どもの分野になるのだろう。私たち事務職員がどんなに教員の仕事を代行しても、新たな存在意義を提案しても分野として、削減の対象となりやすい。また、時代が必要としなくなった職業は、努力しても引き潮は止められない。事務職員はRPAで代替がきくと思われるが、私からしたら教員もAIで代替できると考える。少数精鋭の教師陣で、AIのシステムを構築したら、教師間による差も出ず、教育の機会均衡を図れると思う。そしてなにより、教員による痛ましい事象もなくなる。

話を戻すと、学校事務職員の「いま」は「準備の時代」では決してない。確かに、将来を見据えなくてはいけないが、それによって今が苦しければ、元も子もない。私たちは、今を生きているのだ。AIが云々言っても始まらない。杞憂である。GIGAスクール構想も、多額の税金が投入され、子ども不在のまま4月からスタートする。将来の投資になればいいが、諸外国と周回遅れでスタートしたこの構想が無用の長物とならないことを願わずにはいられない。時代が移り変わっても、私たち沖学労は、今を堅実に、生きやすい社会・職場を作る努力を惜しまず、活動を行っていきます。

参考書籍：月刊「学校事務」2020年12月号掲載
 ≪(コロナ禍に便乗する「GIGAスクール構想」と「事務職員のかかわり」)≫ 伊藤 拓也